卒業アルバムより

3組担任
依田 保夫先生の思い出

筆者：近影

卒業アルバムより

原田 義則

◉ 依田先生と言えば、昭和32年に部長として野球部（当時は野球班）が夏の甲子園に初出場した際に新聞社から受けた3分間電話取材の経験の話を思い出します。
短時間で要領良く情報を伝える事の重要さを教えたかったと思いますが、先生が甲子園出場に関わっていたことを誇りに思っていることがひしひしと伝わりました。

◉ 二つ目は大野正廣君(3組)が生徒会長の時、松尾祭で仮装行列で市中を練り歩くことを企画した時の事です。当時、私は図書委員会の委員長をしていたのですが、何故か、この仮装行列を学校側に認めて貰う交渉役を仰せつかりました。「教師受けの良い」私を交渉役にすることで計画を通そうとした大野君達の思惑があったのかも知れません（本人には未確認）。
その時の交渉相手が担任の依田先生でした。何度か交渉したのですが、依田先生（学校側）のスタンスは固く、直ぐには許可が下りず、結局、十分な準備期間が取れずに企画倒れに終わりました。
これが依田先生と私との間にあった唯一のトラブルでした。

筆者：近影

卒業アルバムより

澤崎 健一

◉ 体育教師としては実にオシャレ、日焼けした強面にオフホワイトのウェアがよく似合っていた。
姿勢が良いからスーツ姿も格好良く、服装センスもなかなかだったことを思い出す。全国レベルでの競技審判の経験が豊富だったせいか、HRや授業中の言葉に、ファールを犯した際のボディアクションが頻繁に入る。これに少々、皮肉のスパイスを加えるのが"依田保（よだやす）トーク"の真骨頂だった。

◉ 卒業を間近に控えた頃、「何か作品を貰えないか・・・」の話があり、恥かしながら30号の油彩画を贈っている。先生とは高1の時から年賀状を交わしているが、卒業から20年近くたった年の年賀状に、「そろそろあの絵に、筆を入れてみないか・・・」との一筆が添えられてあった。
高校時代の絵をここまで大事にしてくれていた事に、涙が出るほど嬉しかった。残念ながら筆を入れる機会の無いままに、2016年10月 先生を旅立たせてしまった。（合掌）